

ちいしんぶん 10.3

2025(令和7) No.1448

■発行所／ライフケア群栄(株)高崎市小八木町312-15ビジネスパーク小八木 ☎027(370)2262 ☎027(370)2263
ちいしんぶんは、旧高崎市内の約9割のご家庭や事業所のポストに無料で投函させていただいています。新規お届けもしくはご不要等、配布に関する件は上記までご連絡下さい。

まゆずみ眼科医院

●日帰り白内障手術
●神経眼科
●ドライアイ
●コンタクトレンズ

診療時間

午前 8:45～12:30
午後 15:00～18:00

休診日

木曜日・日曜・祝祭日

初診・再診ともに電話での予約可能 ☎027-388-8461

高崎市日高町403-2
旧道(旧高崎線)信号「日高南」を西へ



大蛇まつり(写真提供:老神温泉観光協会)

ギネスに認定された大蛇まつり

今年も5月に老神温泉(沼田市)で、「大蛇まつり」が開催された。巳年の今年はギネス世界記録に認定された全長108.22メートルの巨大大蛇みこしが、温泉街を渡御した。私も温泉大使として祭りに参加したが、盛大かつダイナミックな祭りだった。

ところが祭りを観ていて、改めて長年引きずっている疑問が浮上してきた。やはり、おかしいのである。いつ、どこで神様が入れ替わってしまったのか？この祭りの由来には、こんな伝説がある。

昔々、赤城山の神(ヘビ)と日光男体山の神(ムカデ)が戦い、傷を負った赤城の神がこの地で矢を抜いて、地面に突き立てると湯が湧き出たという。その湯につかり傷を癒やし、日光の神を追い返したことから「追い神」と呼ばれる。

また、桐生市にあるムカデの彫刻が施された「百足鳥居」は、赤城山が御神体である。太田市と館林市の赤城神社には、ムカデの板絵や彫刻が残されている。

2018年8月、私は「ぐんま謎学の旅 民話と伝説の舞台⑥(ちいしんぶん)」という本を著した。この時、いくつもの赤城山周辺のムカデ伝説取材した。たとえば赤城山の東南麓から平野部にかけての二荒では、昔からムカデは赤城の神の使いで、殺すと祟りがあるとされている。ムカデを見て「ムカデ、ムカデ、赤城へお行き」と唱えて逃がしてやるそうだ。

—ぐんま謎学の旅— 続・民話と伝説の舞台⑥ 新説「日光と赤城の神戦」

なぜ、日光の神は大蛇に、赤城の神は大ムカデに姿を変えて戦った。(一般的には、そう伝わっている。ところが老神温泉だけは、赤城の神が大蛇として祀られているのだ。なぜ、入れ替わってしまったのか？)

なぜ赤城の神は入れ替わったのか!?

日光の神に包囲された老神

まず赤城山以北には老神温泉を除き、赤城神社が存在しないのである。さらに奇妙なことに老神温泉を取り囲むように周辺には、二荒山神社が点在していた。二荒山とは男体山のこと、二荒の音読みの「ニツコウ」が「日光」の語源ともいわれている。

片品川をはさんだ温泉街の対岸には二荒山神社(沼田市利根町)があり、峠を越えた西側には二荒山神社「日光大権現(沼田市白沢町)」がある。また北に隣接する利根郡片品村にも二



山上城跡園のレリーフ

ていて、ムカデが描かれた絵馬が奉納されていた。これは平成になって作られたものだが、桐生市の「山上城跡公園」には伝説に基づいた大蛇と大ムカデのレリーフが設置されており、へむかしむかし、赤城山の神様の大むかでと日光男体山の神様の大蛇とが争ったとさ」と記されている。

では、なぜ老神温泉だけは赤城の神がヘビになったのか？ 改めて調べてみると前回の取材時には知り得なかった、いくつかの事実が判明した。

荒山神社が二社、鎮座していた。これは、どういふことなのか？ 伝説では日光の神は赤城の神に反撃をされて、退散したはずではなかったのか？

以前、著書の中で私は、神が入れ替わった理由を、こう推測した。へその昔、老神温泉では大きなワラ人形を作り、「オタスケ！」と叫びながら村人が竹やりで突いたという。もし、そのワラ人形が日光の神で、赤城の神への助勢だとしたら……。突いていた日光の神(ヘビ)を、いつしか担ぐようになって考えられなくもない。▽と

しかし、老神温泉が日光の神に包囲されている事実を知った今、新たな推測が成り立つ。もしかしたら赤城山以北にある老神温泉の赤城神社だけは、日光の神に攻め込まれたのではないのか？ だから神が入れ替わってしまったのではないのか？ 今となつては、神のみぞ知ることなのだが……。

(フリーライター／小暮淳)



日光大権現(沼田市白沢町)



二荒山神社(沼田市利根町)

(拡大)

第36回

高崎元旦コンサート 2026

2026年1月1日[木・祝] 13:30開演(12:30開場)

高崎芸術劇場 大劇場

【協賛】群馬銀行 群馬トヨペット ガトーフェスタハラダ

福間 光太郎 (Shiga Taro) 森野 美咲 (Morioka Aika) 中野 りな (Nakayama Rina) 大友 直人 (Daijima Naohito)

新たな年の幕開けを祝う、高崎元旦コンサート。大友直人指揮のもと、群馬交響楽団と豪華ソリストが新春にふさわしい華やかで美しいプログラムをお贈りします。

好評発売中!

出演	大友直人(指揮) 森野美咲(ソプラノ) 中野りな(ヴァイオリン) 福間光太郎(ピアノ) 群馬交響楽団
曲目	J. シュトラウスⅡ世 / ブルッフ / ラフマニノフ 喜歌劇「こうもり」序曲、ワルツ「春の声」 ヴァイオリン協奏曲 第1番 から第3楽章 ピアノ協奏曲 第2番 から第1楽章 ほか
料金(税込)	全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円 (U-25 1,500円)

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※U-25料金は、公演当日25歳以下の方が対象です。当日、年齢のわかる身分証明書をご持参ください。
※車椅子席・介助席のご購入は高崎芸術劇場チケットセンター(TEL:027-321-3900)まで電話でお申し込みください。

◆チケットご購入

■高崎芸術劇場メンバーズ限定 【登録無料】(24時間受付)

■高崎芸術劇場チケットセンター 027-321-3900 (10:00～18:00/無休)

■高崎芸術劇場2Fチケットカウンター (10:00～18:00/無休) ほか高崎市内9か所の高崎市施設プレイガイド